提出日　平成　25 年　　4 月　　5 日

平成 24 年度 総合文化研究所研究助成報告書

研 究 の 種 類（該当に○）

海外共同・共同研究・個人研究・出版助成

研 究 代 表 者（所属・職名・氏名）

文芸学部　専任講師　　浦野　郁

研 究 課 題 名

E. M.フォースター作品に見る英国小説の視覚意識の変容

研 究 分 担 者（共同研究者）

研 究 期 間

平成 24 年 4 月 1 日　～　平成 25 年 3 月 31 日

研究を実施することになった経緯（海外共同の場合のみ記入）

研 究 組 織　　［ 氏名，所属，役割分担 ］
研究発表（印刷中も含む）　雑誌及び図書
Urano, Kaoru. "From the Country House to the Painting: an "Aesthetic" Adaptation of *Howards End* in Zadie Smith's *On Beauty*." *Revue Interdisciplinaire "Textes & contextes"* [en ligne], Numéro 7 (2012) : "D'un début de siècle à l'autre – Les littératures du début des XXe et XXIe siècles dans leur rapport au siècle précédent", 14 décembre 2012. Disponible sur Internet : http://revuesshs.u-bourgogne.fr/textes&contextes/document.php?id=1641 ISSN 1961-991X

研究実績の概要

本研究では、イギリス文学におけるリアリズムとモダニズムという二つの潮流のちょうど狭間に位置する作家とされる E. M.フォースターに注目することで、19 世紀後半から 20 世紀にかけての、「見る」という行為に対する人々の意識の劇的な変容と文学形式の関係を考えてきた。

いくつかの研究を並行して進めてきたが、一つはイギリスの現代作家ゼイディ・スミスの小説 *On Beauty* (2005)が、約 100 年前のフォースターの作品 *Howards End* (1910) のパロディとなっていることに注目したものである。後者において文化的・倫理的価値の中心を担っていたカントリーハウスが、スミスの作品においては絵画に置き換わり、より一層「見る」という行為の持つ意味が重要になっていることから、ポストモダン社会における新しい「視覚中心主義」の台頭及び、美学の復権の様相を考えた。この論文は、研究者と関心の重なる"Early literary centuries— Literatures from the early 20th and 21st centuries and their links with the previous centuries"をテーマに掲げたフランスのオンラインジャーナルに投稿し、2012 年 12 月にウェブ上で公開されている。

さらに研究期間中、隔月で「フォースター研究会」を主宰し、他大学の研究者・院生と共に、フォースターについての最新の伝記である Wendy Moffat 著の *E. M. Forster: A New Life* を通読した。これは特に視覚文学研究の観点から書かれた伝記ではないが、フォースター作品におけるインドでの体験及び同性愛の問題について新たな事実が数多く書かれており、これらに注目しつつポストコロニアリズム批評やクィア批評の観点から、作品中で「描き得ぬもの」がどのように表象されるか、という問題を考えてきた。2013 年 3 月には、ベンジャミン・ブリテンとフォースターが協力し、ハーマン・メルヴィルの原作をオペラ化した *Billy Budd* を取り上げ、その映像表象の特徴について考察する口頭発表を行った。

現在進行中の課題としては、*A Passage to India* (1924)における視覚の不能性の問題がある。この作品の中心に位置する問題は常に「マラバール洞窟で一体何が起こったか」であったが、作者フォースターもそれを不可知のものとして、明確に描いていない点に特徴がある。本研究ではこの語りの沈黙・空白を、リアリズムの手法が拠り所とする「見ることは知ること」という等式が、東洋という他者の前で崩壊した結果として論ずることを目指している。その際に、未知のものやショッキングな事件に遭遇した時に視覚体験と知が乖離し、空間的・時間的に離れた地点・時点から体験が再構築される様を分析するトラウマ理論を援用することを考え、関連文献を収集・読解してきた。現在は、近年再び小説の「語り」や「視点」に注目が集まっていることを鑑みて、ここにナラトロジーの知見を融合する方法を模索している。このテーマに関しても、2013 年内に国外または国内の出版物に論文を発表したいと考えている。